

1. 鉄筋の表示記号

Table with 4 columns: 鉄筋径 (Reinforcement diameter), 表示記号 (Symbol), 異形鉄筋 (Deformed reinforcement), 表示記号 (Symbol). Rows include D10, D13, D16, D19, D22 and their respective symbols.

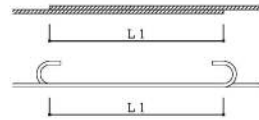
(注) 本図集において、鉄筋の表示方式は、上記の形式とする

2. 鉄筋の表示方式

Table with 2 columns: 表示方式 (Representation method), 表示例および内容 (Representation example and content). Rows show examples for n-Dm, Dm @L, Dm @L(D), Dm Dm' @L, and Dm @L 千鳥 (Staggered).

(注) 本図集において、鉄筋の表示方式は、上記の形式とする

・L1 (重ね継手) の長さは下記に示す値とする。



公共住宅標準詳細設計図集

3. 鉄筋の定着および継手長さ

Table detailing reinforcement anchorage and lap length. Columns include concrete design strength (F_c), reinforcement type, hook presence, and lap length (L1, L2, L3) for different concrete strengths and reinforcement types.

継手の定着
○重ね継手と定着の長さの3の表を基準とする。ただし径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い方の公称直径による。
◇L1は継手並びに下記のL2及びL3以外の定着長さを示す。
◇L2は異形鉄筋で割断破壊のおそれのない箇所での定着長さを示す。
◇L3は小梁及び床版の下端部の定着長さを示す。但し、基礎埋込、これを受ける小梁などは除く。

仕

棟

附

記

事

項

名称 共通事項 (その1)

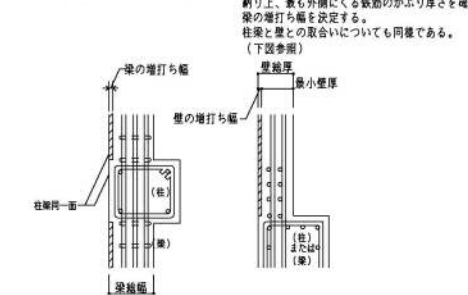
縮尺 R-1-1

1. 鉄筋のかぶりの厚さの最小値 (mm)

Table showing minimum reinforcement cover thickness (mm) for various concrete parts. Columns include part name (e.g., 構造部分の種類, 床版, 柱), and cover thickness values for different concrete types.

(注) 1. 目地がある場合のかぶり厚さは、目地底からとする。
2. 上表は、構造用軽量コンクリートの場合も含む。
3. 仕上げありとは、モルタル塗り・タイル張り等の仕上げのあるものとし、仕上げ塗材等などで鉄筋の耐久上有効でない仕上げのものを除く。
4. 床版、梁、基礎および壁で表土に接する部分のかぶり厚さには、接コンクリートの厚さを含まない。
5. 柱基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。

2. 梁壁の増打ち幅



公共住宅標準詳細設計図集

仕

棟

附

記

事

項

名称 共通事項 (その3)

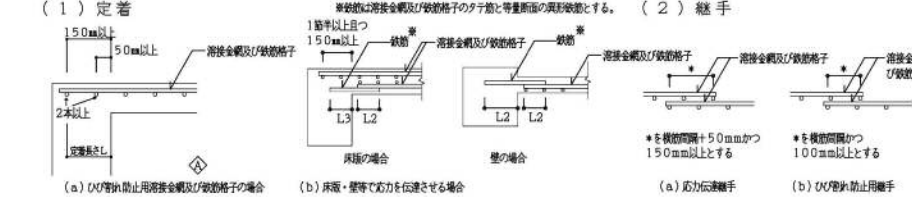
縮尺 R-1-3

1. 鉄筋の折曲げ規準

Table showing reinforcement bending standards. Columns include bending angle (折曲げ角度), bending radius (折曲げ半径), and reinforcement type (鉄筋の種類). Rows show standards for 180°, 135°, 90°, and 90°/135° bending.

(注) Dは、曲げ内の寸法

2. 溶接金網及び鉄筋格子の定着と継手



公共住宅標準詳細設計図集

フックを必要とする末端部を次に示す。
1) 異形鉄筋では巻筋、あばら筋
2) 壁に用いる鉄筋 (壁の一部となる場合を含む)
3) 一般梁柱、梁 (基礎梁を除く) の出隅部分の重ね継手
◇ひび割れ防止に用いる溶接金網及び鉄筋格子の定着長さは、支持部材の内側表面から溶接金網及び鉄筋格子の表外端の敷筋までの距離とし、その値は敷筋間隔に50mmを加えた長さ以上、かつ150mm以上とする。

仕

棟

附

記

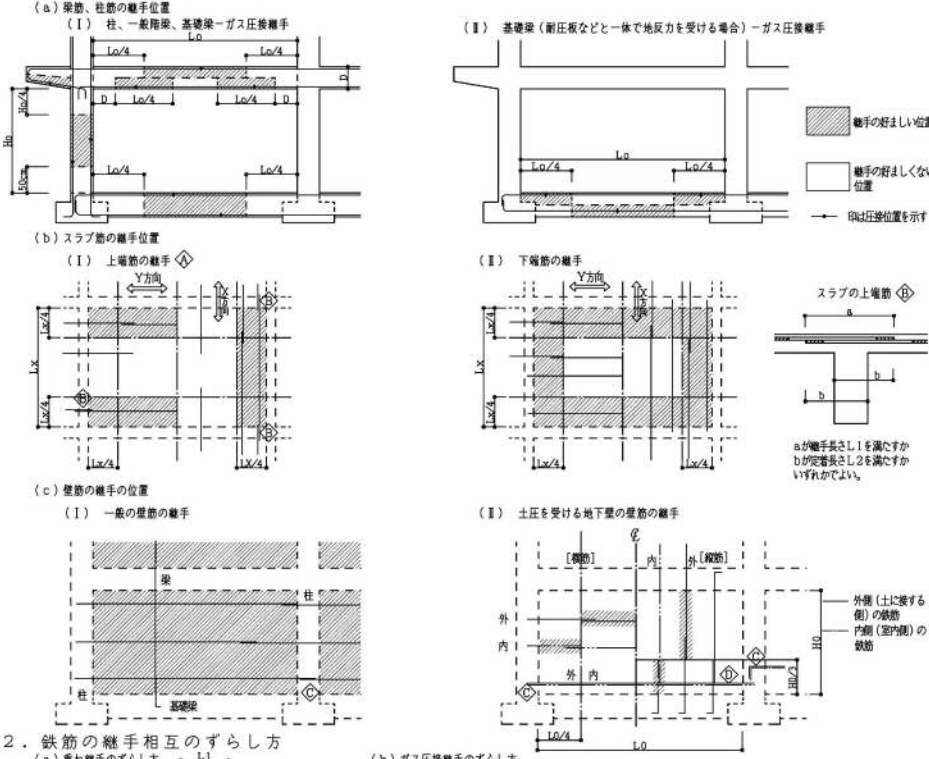
事

項

名称 共通事項 (その2)

縮尺 R-1-2

1. 鉄筋の継手位置 (ラーメン構造用)



2. 鉄筋の継手相互のずらし方



仕

棟

附

記

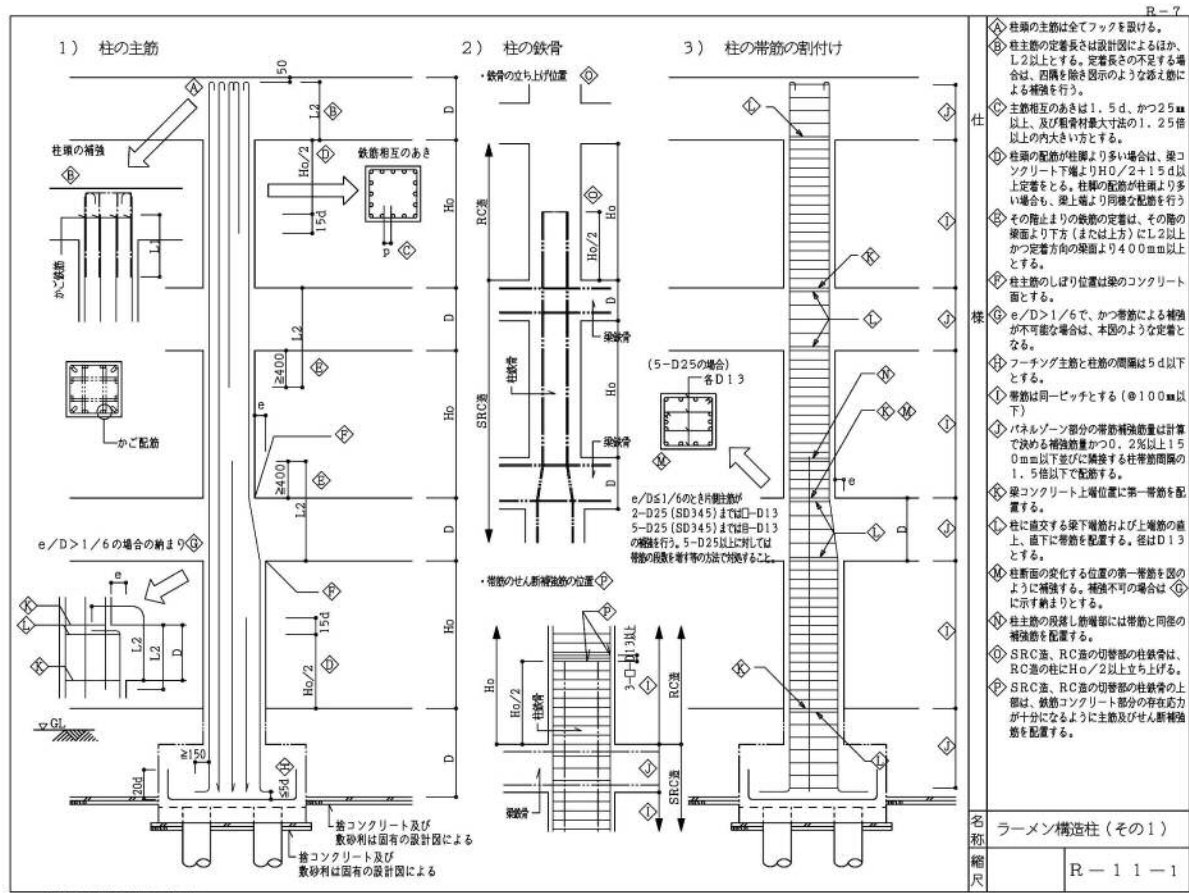
事

項

名称 共通事項 (その4)

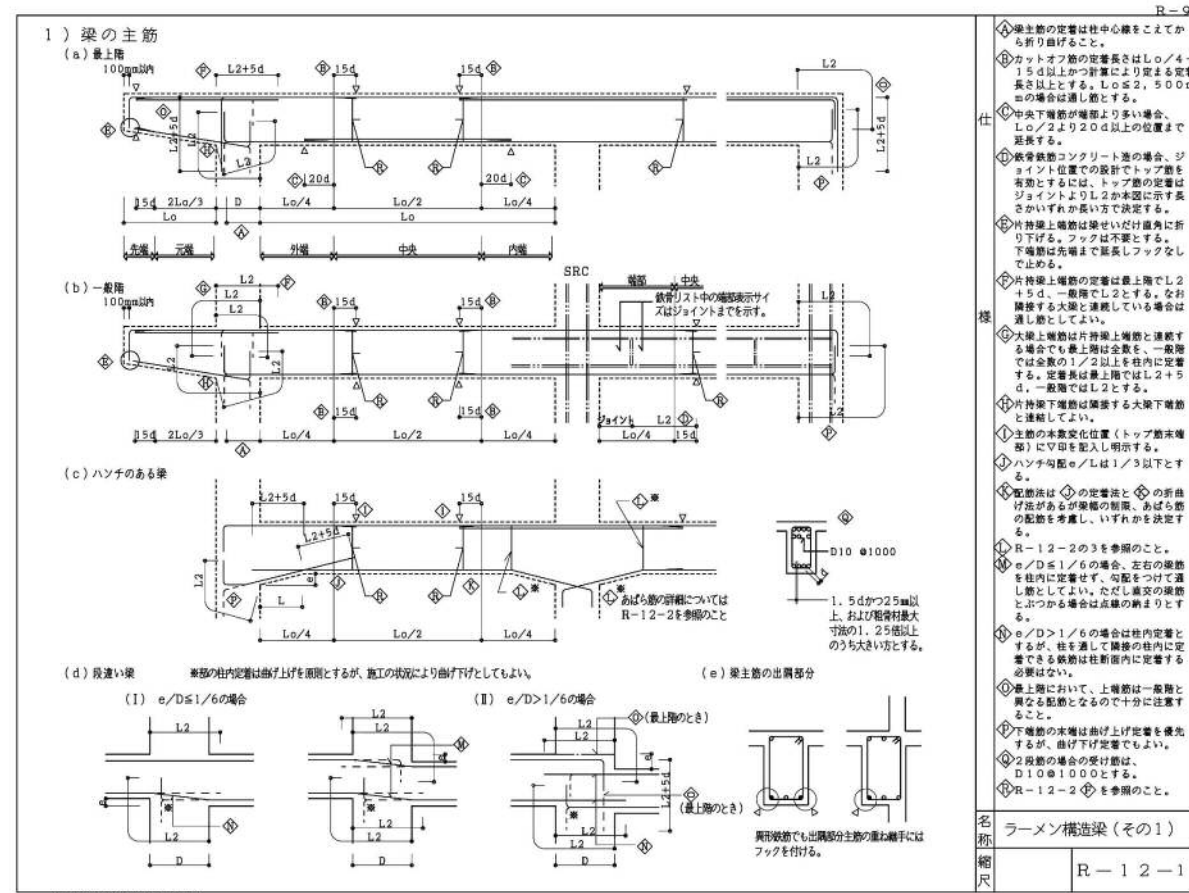
縮尺 R-1-4

Table with project information. Columns include 住宅建築工事 (第 工区), 鉄筋コンクリート構造 (配筋基準図 (1)), 縮尺 (A1: -, A3: -), 図面番号 (No.), and 愛知県建築局公共建築部公営住宅課.



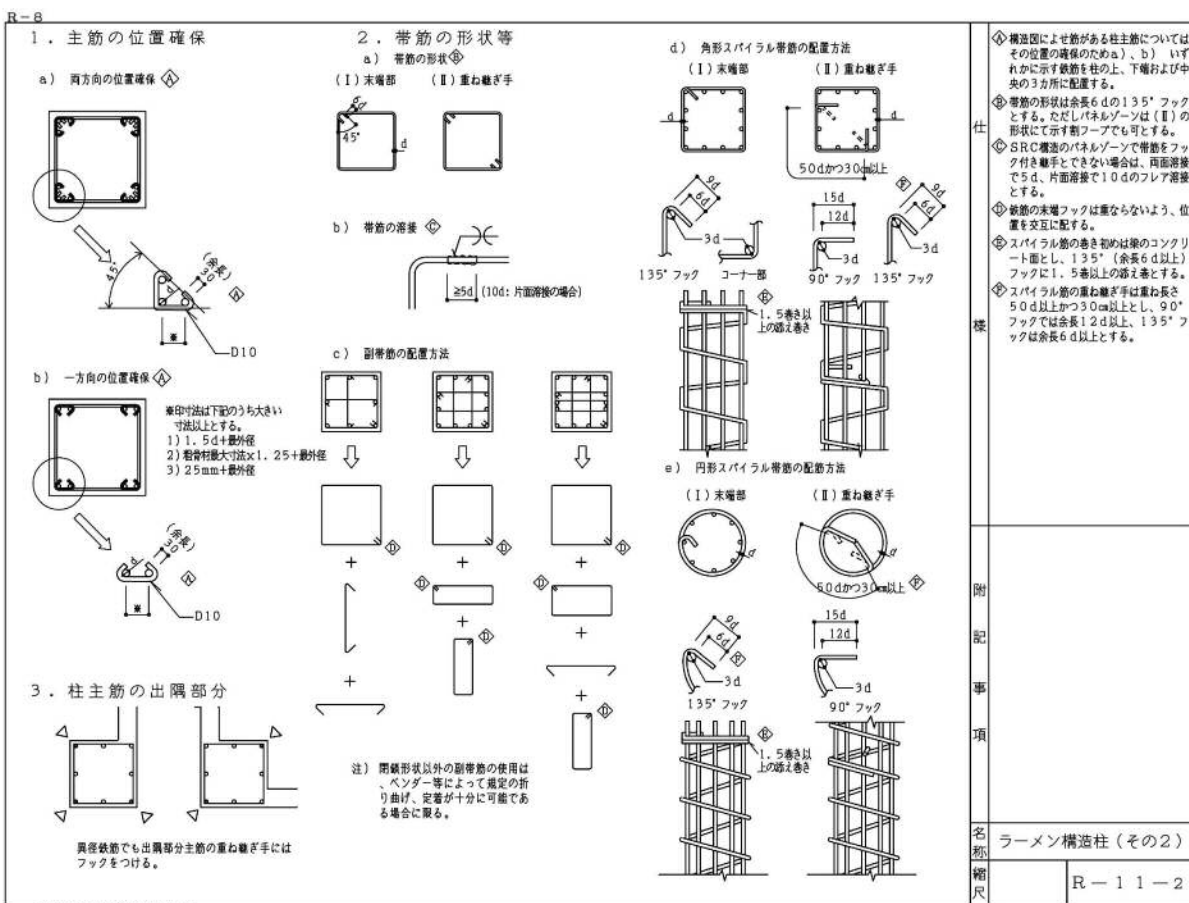
公共住宅標準詳細設計図集

名称 ラーメン構造柱(その1)
縮尺 R-11-1



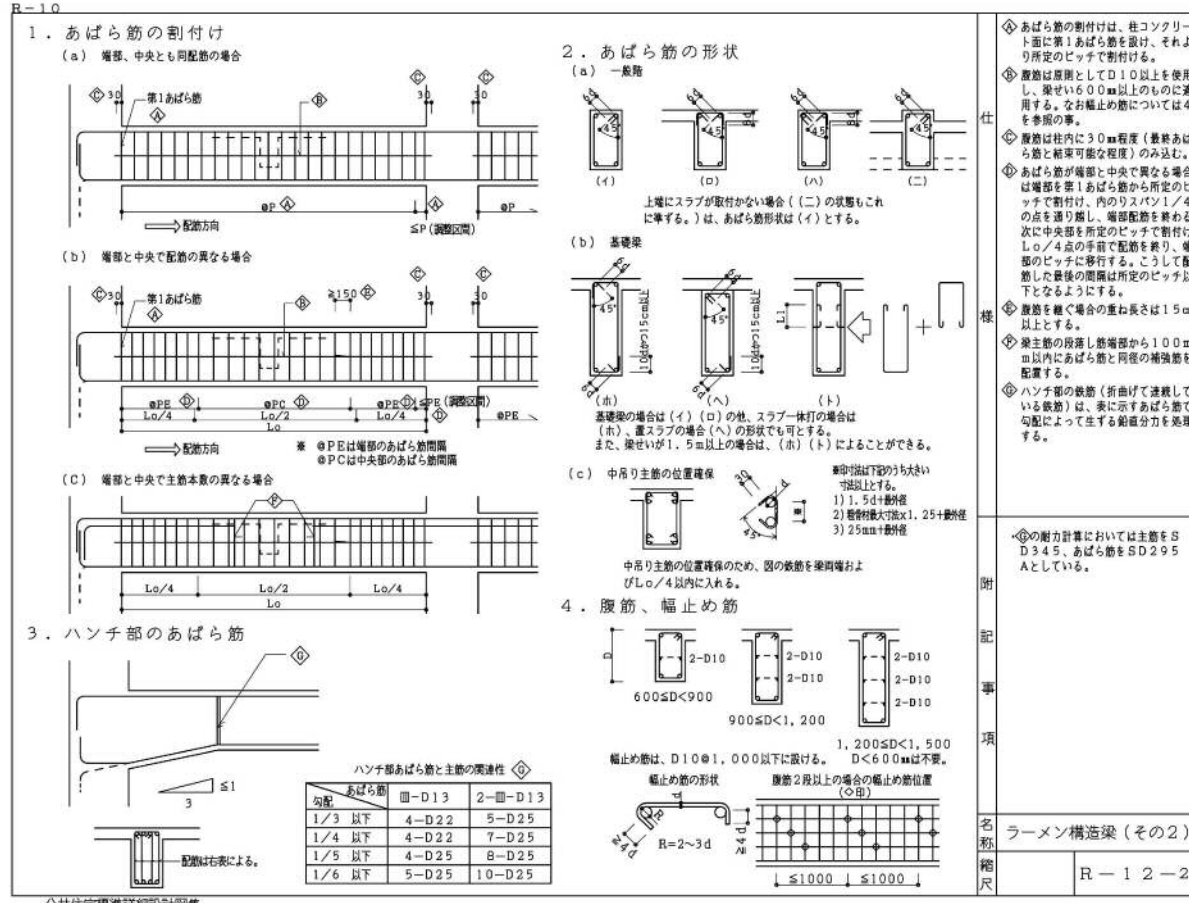
公共住宅標準詳細設計図集

名称 ラーメン構造梁(その1)
縮尺 R-12-1



公共住宅標準詳細設計図集

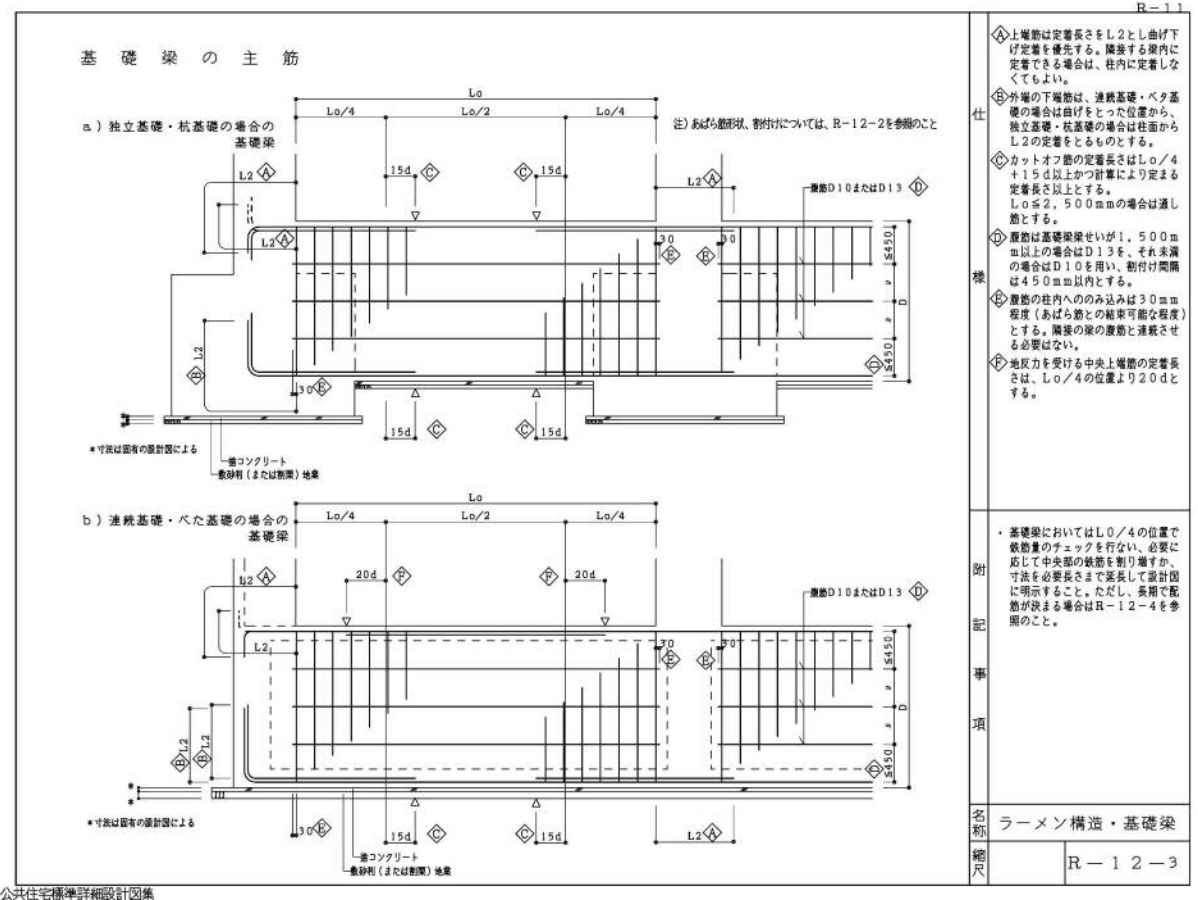
名称 ラーメン構造柱(その2)
縮尺 R-11-2



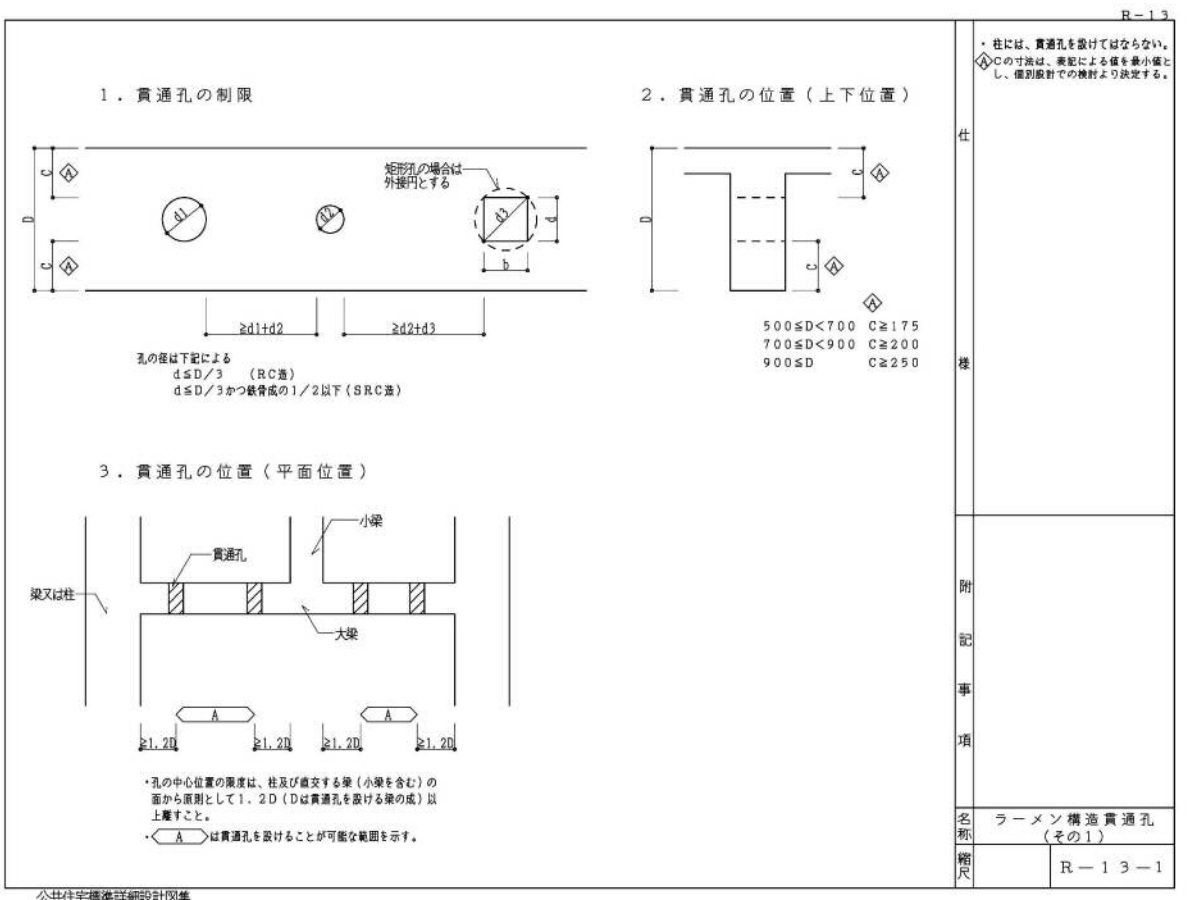
公共住宅標準詳細設計図集

名称 ラーメン構造梁(その2)
縮尺 R-12-2

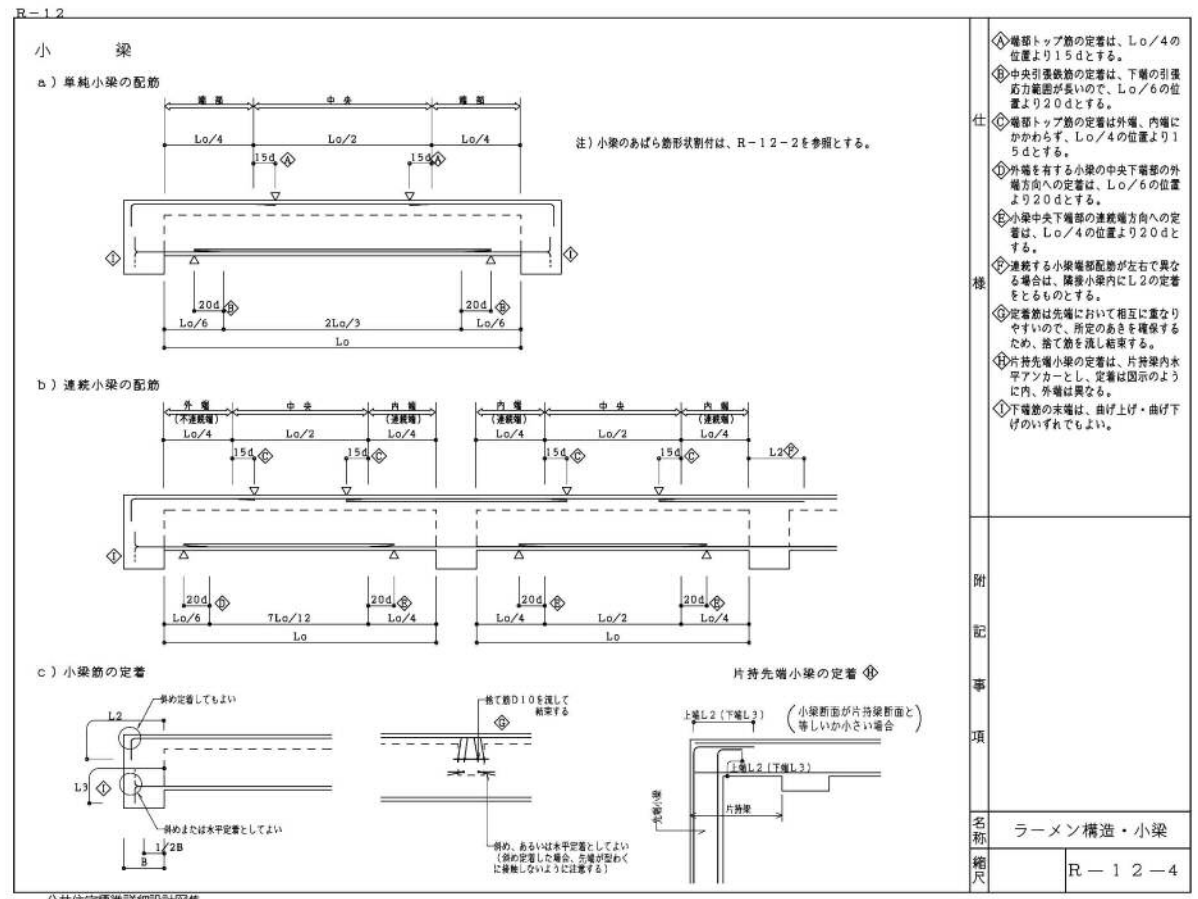
住宅建築工事(第 工区)		図面番号
鉄筋コンクリート 構造	縮尺 A1: - A3: -	No.
配筋基準図(2)		
検 査	製 図	設 計
愛知県建築局公共建築部公営住宅課		



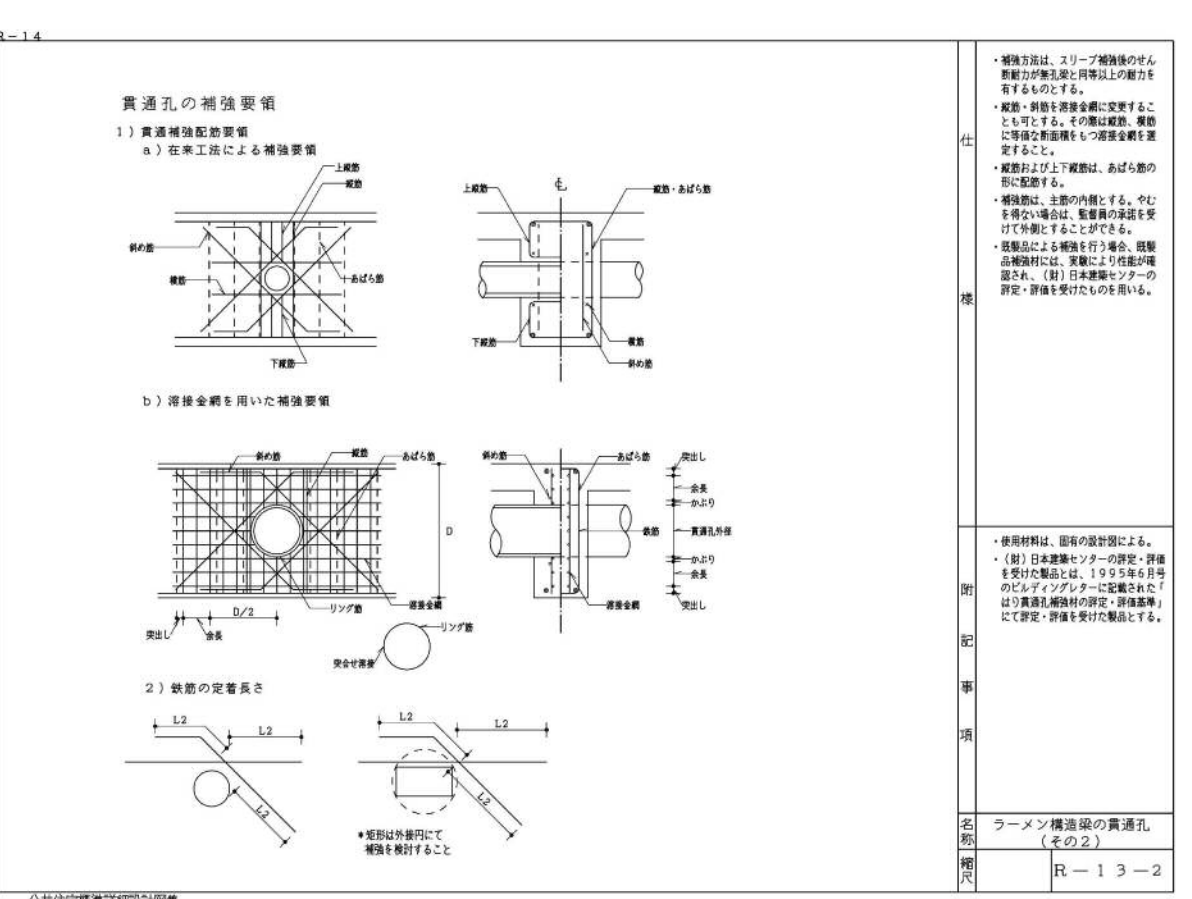
公共住宅標準詳細設計図集



公共住宅標準詳細設計図集



公共住宅標準詳細設計図集



公共住宅標準詳細設計図集

住宅建築工事(第 工区)		図面番号
鉄筋コンクリート 構造	縮尺	No.
配筋基準図(3)	A1: - A3: -	
校 図	製 図	設 計
愛知県建築局公共建築部公営住宅課		

R-15

非耐力壁

1) 非耐力壁 配筋リスト

呼称	非耐力壁					備考
	W100	W120	W150	W180	W200	
断面図 (立断面)						極止め筋配置
縦筋	D10 @ 250	D10 @ 200	D10 @ 150	D10 @ 200	D10 @ 200	
横筋	D10 @ 250	D10 @ 200	D10 @ 150	D10 @ 200	D10 @ 200	
開口部曲げ補強筋	1 - D13	2 - D13	2 - D13	2 - D13	2 - D13	
開口部斜め補強筋	1 - D13	2 - D13	2 - D13	2 - D13	2 - D13	

2) コンクリートブロック壁 配筋リスト

呼称	コンクリート壁			備考
	CB100	CB150	CB200	
断面図 (立断面)				* 筋数は耐力壁を示す。
縦筋	D10 @ 400	D10 @ 400	D10 @ 400	
横筋	D10 @ 600	D10 @ 600	D10 @ 600	

3) 非耐力壁の割付け

仕
様
附
記
事
項
名
称
縮
尺

- 見付200mm×200mm以下の開口部については補強不要とし、縦、横筋ともに開口部を避けて割付ける。
- 斜め補強は格子鉄筋を用いる場合は詳細はR-14-2を参照のこと。
- 非耐力壁の定着長は、縦筋・横筋共にLとする。
- W180、W200の場合には、極止め筋をD10@1,000以内に設ける。極止め筋は、縦筋に水平方向に設ける。
- 壁のダブル配筋を行う場合、横筋は縦筋の外側に配す。
- 壁の極止め筋の配置要領は、上記以外のダブル配筋を行う場合にも適用とする。

ラーメン構造非耐力壁 (その1)
縮尺 R-14-1

公共住宅標準詳細設計図集

R-17

6) 完全スリット及び部分スリット要領

(a) スリット配筋例

(b) スリット部分の補強

① 部分スリット

- 梁-非耐力壁
- 柱-非耐力壁

② 完全スリット

- 梁-非耐力壁
- 柱-非耐力壁

※ aの寸法等は設計図による。

スリット位置は設計図に明示すること。
スリット幅は、本体と同等の形状を考慮し、二次壁の高さ(梁の場合は二次壁の高さ)の1/10以上とする。

ラーメン構造非耐力壁 (その3)
縮尺 R-14-3

公共住宅標準詳細設計図集

R-16

4) 非耐力壁開口補強, スリット詳細

注) 開口部補強筋は全てD13を示し、---表示の補強筋はW120以上の場合に使用する。

(a) フレーム内の場合

(b) フレーム外の場合

5) ひび割れ防止用補強筋

溶接金網	壁厚	W100		W120, W150, W180, W200	
		a	b	a	b
6φ 100x100	200	400	200	-	-
8φ 100x100	200	200	200	400	200

格子鉄筋	壁厚	W100, W120		W150, W180, W200	
		a	b	a	b
D6 100x100	200	200	-	-	-
D10 100x100	-	-	200	200	200

※ 印の寸法は右表を参照のこと。

仕
様
附
記
事
項
名
称
縮
尺

- スリットの要領はR-14-3を参照する。
- 開口部が柱、梁に接する場合はそれぞれ縦筋、横筋の補強筋は不要とする。
- 開口部補強筋はリストに表示したようにW100では1-D13、W120~W200では2-D13とする。
- 見付200mm×200mm以下の開口部については補強不要とし、縦・横筋は開口部を避けて割付ける。
- 斜め筋は縦筋、横筋の本数、サイズを増強して省略することができる。斜め筋のかわりに溶接金網、格子鉄筋を用いてもよい。
- 開口部周囲に、斜め筋のかわりにひびわれ防止用の溶接金網、または格子鉄筋を用いる場合、サイズおよびピッチを表示する。
- 開口部補強筋は縦、横、斜め筋を併用し、D10@100を最小とする。
- スリット位置は設計図に明示すること。

ラーメン構造非耐力壁 (その2)
縮尺 R-14-2

公共住宅標準詳細設計図集

R-18

耐力壁・地下壁

1) 耐力壁の配筋, 定着

(a) 柱への定着

(b) 梁への定着

2) 地下壁の配筋, 定着

(a) 柱への定着

(b) 梁への定着

※ 耐力壁・地下壁のコンクリートの打り厚さは図面の設計図による。

仕
様
附
記
事
項
名
称
縮
尺

- 外側鉄筋は柱、梁断面内に定着せず、転手は壁外側に設ける。
- 内側鉄筋は柱、梁断面内に定着するか、または埋込とする。
- 鉄筋の第1鉄筋は柱、梁面より50mmの位置に設け、壁筋はこれを基準として割付ける。
- 外側鉄筋の本端はL2かつ柱、梁断面内の中心線を超えて定着する。先端の折曲角は90°以上とし、余長は150mm以上を確保する。
- 鉄筋は、梁をこえて転手長さの半分だけ立上げる。また上下の鉄筋ピッチが異なるときは転手としてよい。
- 外側鉄筋は断面内にL2かつ水平に150mmの定着をとるものとする。
- 基礎梁の定着は表示の埋込以上よいが鉄筋の位置の確保のため、1mピッチ程度で転手の上端まで下げる。
- 内側鉄筋は断面内にL2の定着長をとるものとする。
- 鉄筋の第1鉄筋は柱、梁面より50mmの位置に設け、壁筋はこれを基準として割付ける。
- 外側鉄筋は断面内として柱内定着せず、壁筋で転手を取らなければならない。
- 内側鉄筋は柱内に定着し、定着長はL2とする。
- 鉄筋の配置により、eの値が変化するので設計上の"te"の値は鉄筋を考慮の上決定すること。
- 柱主筋D25、壁筋D16のときは、⑥~⑧4mmとなる。
- 極止め筋はD10@1,000以内とする。
- 壁のダブル配筋を行う場合、横筋は縦筋の外側に配す。ただし地下壁については、縦筋は横筋の外側に配す。

ラーメン構造耐力壁・地下壁
縮尺 R-15-1

公共住宅標準詳細設計図集

住宅建築工事(第 工区)		図面番号
鉄筋コンクリート構造	縮尺 A1: - A3: -	No.
配筋基準図(4)		
検図	製図	設計
愛知県建築局公共建築部公営住宅課		

R-3-9

床スラブ配筋基準

4 辺固定スラブ

3 辺固定 1 辺自由スラブ

[1] 上端筋 下端筋

[2] 上端筋 下端筋

No	版厚	位置	短辺方向		長辺方向		備考
			柱間部	中央部	柱間部	中央部	
		上端筋	(A)	(B)	(C)	(D)	
		下端筋		(E)	(F)	(G)	

a. 継手長さ……L1 (引張り応力を受ける箇所) L2 (圧縮応力を受ける箇所)
b. 定着長さ……(上端筋……L2) (下端筋……L3) 要項は*図1による。

*図1 (耐圧種)

名称: 床板 (その1)
縮尺: R-5 1-1

R-4-1

1. 壁受部分のスラブ補強

スラブに壁に取り付けるときは、壁筋を階間へ交互にアンカーする。(定着長25d)

2. スラブ受け筋

梁中間にスラブが取り付くときはスラブ上端筋の発着筋を入れる。

3. スラブ段差部配筋要領

h ≤ 150mmの場合-1

h ≤ 150mmの場合-2

h > 150mmの場合

4. スラブ開口部補強

※ 斜筋は、スラブ上端筋・下端筋の内側に配置する。
a. 200 ≤ a ≤ 600 の場合

b. a < 200 の場合……補強筋は環状
a > 600 の場合……補強筋は環状により決定する

※ メッシュによるスラブ開口部補強

名称: 床板 (その3)
縮尺: R-5 1-3

R-4-0

床板配筋要領

* SRC 部分下端筋の納まり

床板スプーラー配置要領

[1] 住戸部分床板の上層スプーラー

住戸部分床板の上層には、プラスチックスプーラーまたは鋼製スプーラー（いずれも鉄筋止め用の工夫のあるもの）を貫筋の位置（○印にて示す）に750mm以下の間隔で設置し、床端部配筋の位置（●印にて示す）に600mm以下の間隔で設置する。ただし、短辺方向の長さが300mm以下の場合は、床端部配筋の位置のスプーラーの間隔を750mm以下とすることができる。

[2] 住戸部分床板の下層スプーラー

住戸部分床板の下層には、プラスチックスプーラー（下部直下付き）または鋼製スプーラー（鉄筋止め用の工夫のあるもの）を床板1階当たり2層程度の割合で有効に設置する。

名称: 床板 (その2)
縮尺: R-5 1-2

R-4-2

◎1階スラブ（土間コンクリートスラブ、後打ちスラブ）差し筋要領

1. 土間コンクリート配筋、差し筋

・差し筋の折曲げ起点は基礎梁中心をこえる位置に設ける。

・基礎梁天端と土間コンクリート天端、同レベルのとき

・土間コンクリートを基礎梁から切り離す場合

2. 1階後打ちスラブ差し筋要領

（スラブ厚み及び発着量は各工務団体の打付スラブ配筋リストに依る）

名称: 床板 (その4)
縮尺: R-5 1-4

鈴木 浩		住宅建築工事(第 工区)		図面番号
		鉄筋コンクリート構造 配筋基準図(7)	縮尺 A1: - A3: -	
検図	製図	設計	愛知県建築局公共建築部公営住宅課	

◎スラブ出隅部・入隅部補強配筋要領

① 形状変更部は、長辺方向・短辺方向共に、スラブの上・下縁部と同様の補強筋を各配筋と同レベルで追加する。ただし、設計時における配筋ピッチが100mm以下の場合、補強は不要とする。

② 形状変更部の補強範囲内の補強筋は、上縁部・下縁部ともピッチが100mm以下となるように配筋する。

③ 補強筋の末端部はスラブ上縁部と同様の定着・余長とする。

④ バルコニーに段差がなく、隣接スラブ内に定着できる場合は、鉄筋を差込してもよい。

⑤ バルコニー出隅部についてはR-51-7を参照のこと。

⑥ R-51-3に示す開口補強筋と出隅部・形状変更部の補強筋が同一位置となる場合は、R-51-3の補強筋を優先して配筋を行う。

下部のスラブ各層には補強筋を配す。

- 1: 形状変更部
- 2: 廊下・バルコニー入隅部
- 3: 廊下・バルコニー形状変更部
- 4: 2.4層を越えるスラブの区画
- 5: 建築物区画間(この部分の配筋は設計図に注意)

(a) 補強配筋要領

(b) 補強筋定着要領

- ・スラブが連続しない場合
- ・スラブが連続している場合
- ・バルコニーが取り付いている場合
・スラブに段差のある場合も同様な定着方法とする。

名称: 床板(その5)
縮尺: R-51-5

公共住宅標準詳細設計図集

片持スラブ配筋要領

(e) 片持スラブかぶり厚さ

(f) 片持スラブ先端と手すりとの納まり

(g) 片持スラブ隅部配筋

(h) 片持梁位置の配筋の補強

(i) 遊樂具開口位置

(j) バラベットの設置詳細図

① 手すりの厚さは、図中の設計図による。

② 手すり壁がスラブの上縁部のみで、手すり壁がスラブ内に2層以上ある場合は、手すり壁の配筋を断面まで延長し、型補強筋を配筋する。

③ 片持スラブ隅部は、斜め筋による補強は行わない。(補強筋を配すとは段階となるため)

④ 片持梁位置には片持スラブ上縁部による補強を行う。補強筋は片持スラブ内に2層以上定着すること。

⑤ 遊樂具の開口は、手すり端部より500mm以上離して設ける。

⑥ 手すり壁が、柱及び壁に取り付く場合は、手すり壁と柱及び壁の間にスリットを設ける。ただし、スリットを設けず、手すり壁の柱及び壁に対する影響を考慮した設計を行う場合は、スリットを設けなくてもよい。

・片持スラブの出寸法(L0)は、梁面からとする。また、L0が大きい場合、片持スラブの先端に集中荷重が作用する場合は、片持梁にて補強を行う。

・片持スラブ厚さ、寸法、配筋は固有の設計図による。

・本配筋設計図は、“ラーメン構造”及び“壁式構造”で共通に使用するものとする。

名称: 片持ちスラブ配筋要領(その2)
縮尺: R-51-7

公共住宅標準詳細設計図集

片持スラブ配筋要領

(a) 隣接スラブと連続する場合

(b) 隣接スラブと段差のある場合

(c) 逆Tスラブとなる場合

(d) シングル断面としてよい片持スラブ

① 受け筋はD13以上とし配力筋と兼用してもよい。

② 片持スラブ受け筋は縦筋スペーサー600mm以内に設置し、その位置を確保する。片持スラブの下縁部の元端と先端にかぶりを保持するためのスペーサーを配筋する。

③ 先端部補強筋は1-D13以上とする。

④ 先端の縦筋受け筋は1-D13以上を配筋する。主力下縁筋は本切目位置から400mmの位置で止める。また、溝部下部にはびげ割れ防止のためD10を配す。

⑤ 隣接スラブと段差のある場合も可能な限り隣接スラブにアンカーとし、不可能な場合のみ梁内アンカーとする。

⑥ SRC筋の場合、片持スラブ上縁部がウェブに当たらないよう“e”の寸法を決定すること。

⑦ 逆Tスラブの場合のあいだの縦筋アンカーは折曲げ位置より250とする。

⑧ 片持長さ600mm以下のものは、シングル配筋としてよい。

⑨ 片持スラブ筋の折込位置は中心を揃えかつ200mm以上とする。

・片持スラブの出寸法(L0)は、梁面からとする。また、L0が大きい場合、片持スラブの先端に集中荷重が作用する場合は、片持梁にて補強を行う。

・片持スラブ厚さ、寸法、配筋は固有の設計図による。

・本配筋設計図は、“ラーメン構造”及び“壁式構造”で共通に使用するものとする。

片持スラブの元端の厚さt3は設計図による他、下記のとおりとする。

位置	L0 (mm)	t3 (mm)
バルコニー	L0 ≤ 1000	160
廊下	1000 < L0 ≤ 1400	180
庇	600 ≤ L0 ≤ 1300	150
	1300 < L0 ≤ 1500	180

名称: 片持ちスラブ配筋要領(その1)
縮尺: R-51-6

公共住宅標準詳細設計図集

住宅建築工事(第 工区)		図面番号
鉄筋コンクリート構造	縮尺 A1: - A3: -	No.
配筋基準図(8)		
校 図	製 図	設 計
愛知県建築局公共建築部公営住宅課		

